

今週のメニュー

[年頭挨拶](#)

塩ビ工業・環境協会 会長 菅原 公一

[年頭所感](#)

塩ビ工業・環境協会 専務理事 関 成孝

[お知らせ](#)

【NEW】EU Gateway Programme 事務局からのお知らせ

[編集後記](#)

年頭挨拶

塩ビ工業・環境協会 会長 菅原 公一

皆さん、明けましておめでとうございます。

本日は、皆様ご多用中にも拘りませず、経済産業省の後藤次長様をはじめ関係官庁の皆様、平素より塩ビについて様々お世話になっております皆様やマスコミの皆様方に、多数ご参集いただきまして、誠に有難うございます。本年も厳しい状況ではございますが、どうぞ倍旧のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

さてまず最初に昨年の総括を申し上げます。

内需は停滞し塩ビの国内需要は32年ぶりに100万tを割るものと見込まれます。自動車も国内販売は500万台を切りました。塩ビの主力市場である建築分野でも住宅着工が42年ぶりに90万戸を下回る見込みであり、また公共投資も政府の景気刺激策が途中で息切れしました。

因みに、一年前、昨年、の年始を振り返りますと、全メディアがこぞって、2009年日本の景気について“Free Flow”、底なしの急降下の脅威を取り上げ、世界的な景気崩壊の話題で持ちきりでした。事実1-3月期、日本経済は、欧米が震源の世界同時不況という激震・大津波に襲われました。日本列島に亀裂が走りました。

昨年の賀詞交歓会でもこの状況を申し上げ、こうした経済の構造を変えるような未曾有の景気後退は、塩ビ業界あげて必死の努力をするものの、一業界の努力では如何ともしがたい。ファンダメンタルズに係わる問題には、政府の政策出動による強力な対策が必要であるをお願いしました。

ところが実際には年央に政権交代したこともあり、期待とは裏腹に産業界に耐え難い荷



VEC 菅原会長



経済産業省製造産業局
後藤次長

重をかける逆風が吹いています。諸外国とのイーコール・フィッシングを考慮しないナフサ課税・環境税・CO2 対策など、いたずらに日本の化学産業の国際競争力を削ぐだけであり、産業の息の根を止めてしまいます。

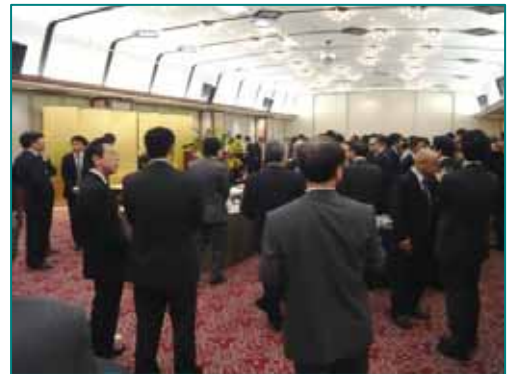
その一方で、輸出は昨年50万t台半ばを大きく上回って70万t前後に増加する見込みであります。アジア市場、中近東など国家建設に燃える新興国のインフラ投資で塩ビが力強い需要回復を示しています。塩ビが国つくりのためには欠かせない基本素材ということに改めて実感しています。今後も塩ビが、アジアほか新興国の発展を支える必須の素材として需要が拡大すると思われます。

このように、昨年は一言で言えば、内需停滞・アジア活況、という状況ですが、生産は、2008年実績に近い165-170万トン、内需も対前年比82-83%位の見通しで80%経済といわれる中では、絶対量は全く不本意ですが相対的にはそこそこ健闘したといっても良いかと総括します。

問題は今年です。

企業・消費者ともに心理が冷え込んでいます。財布の紐が硬く閉められている。残念ながら日本経済の復元力は弱く景気が反転する材料が不足しています。特に、デフレスパイラルが頭痛の種で、雇用や倒産問題が心配です。

需要分野の裾野が広い塩ビは、日本全体の景気の影響を受けやすく、景気回復を牽引する政府の力強い経済政策、長期展望に立った成長戦略を切望します。



懇談風景

また、ご存知のように塩ビの内需の半分以上は住宅・建設関連用途です。加えて、住宅は部品点数が自動車以上に多く経済全体への波及効果が大きいものです。よって、例えば生前贈与税の軽減のような諸政策は住宅市場の再活性に繋がります。住宅市場がもっと元気になれば、国民の顔が明るくなるはずで、政府の一層の刺激策を期待します。

今年も景気回復の低迷をはじめ、様々な困難があります。しかし塩ビの見通しを悲観しているわけではありません。

世の中の環境志向は強まっています。石油依存への見直し機運が出ています。景気が弱い時期には様々な見直しが加速される時です。こうした時期こそ塩ビの環境特性の良さ、品質の高さ、そのコストパフォーマンスをアピールして、塩ビ市場の回復に取り組む時期です。

VECの活動をしっかりやります。メーカーの原点、技術に磨きをかけ塩ビの良さを訴え、VECの本来の仕事を粛々と全うします。

自動車・建設材料で塩ビの見直し再評価が始まっています。塩ビの良さ、品質とコストバランス、を社会に伝える活動をしっかりやります。

商売の神様、松下幸之助氏の言葉、“好況良し、不況もっと良し”。こんな時は開き直りも必要です。不況時にこそ製品の真価が現れます。原点に帰るいいチャンスです。

また、最近東京都が老朽化した上下水道の損傷による道路陥没を重視し、塩ビを使った管路の更正に本格的に取り組むと聞いております。このような明るい話題がたくさん出ており、勇気もらっています。

また、添加剤などの化学物質情報についても最新の状況を社会に伝え、当協会として、塩ビ製品業界の皆様とも手を携えて、真摯な取り組みをして参ります。

加えて、塩ビ産業を育てて行くためには新分野の開拓が欠かせません。

樹脂窓につきましては、温暖化対策の一環として、設置補助金、税制、更にはエコポイントや窓の性能表示など様々な普及政策が出揃おうとしています。私共のお客様である窓メーカーさんが積極的にビジネスを展開していただけるステージになりました。ここに至るまでに多大なご尽力、ご指導を頂いた皆様に深く感謝申し上げます。

さて、ここでもう一度日本の塩ビ産業の有姿について申し上げます。

日本はアジアの一員、アジア経済圏の Insider です。その意味で日本の塩ビメーカーはアジア経済圏での存在感と責任ある製造者・供給者という立場で、アジア市場に責任を持つ、独自の Identity を構築してきています。

こうしたことから、塩ビの国際競争力が、今課題です。

しかるに昨年末に導入が検討された環境税や石化原料への課税は、日本のみが突出して先行すると、国際的なバランスを欠き、当然ながら塩ビの国際競争力を喪失させます。アジアでの存在感が低下し、塩ビ関連の事業に直接携わる者だけでも約9万人の雇用を危うくします。波及効果は更に大きく、到底容認できるものではありません。

ご参集の皆様のご支援を頂きながら、今年も塩ビの需要の回復に向けて、塩ビの良さを一層強くアピールし、新市場の開拓・活動に取り組んで参りますので、今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

最後になりましたが、本日ご参集の皆様のご健康、ご多幸、またお仕事の隆盛を祈念致しまして、新年のご挨拶とさせていただきます。
本日は誠に有難うございました。

(1月7日開催のVEC 賀詞交歓会での、会長年頭挨拶を掲載いたしました。)

年頭所感

塩ビ工業・環境協会 専務理事 関 成孝

あけましておめでとうございます。

今年は、21世紀に入って最初の10年の節目となる年です。昨年は、政治・経済環境が大きく変動しましたが、今年は、日本の未来の持続的発展を見据え、飛躍のために、しっかりとした礎を築くことが課題となる年になろうかと思ひます。

塩ビの工業的生産は、日本で開始されたのが1941年ですから、今年で70年目を迎えます。戦後の復興と、後の経済発展に大きな貢献を果たしました。近年は、中国、インドの他、いわゆる先進途上国におけるインフラ整備で大きな役割を担い、世界市場を牽引しています。

昨年の塩ビ樹脂内需は、景気低迷の影響を受けて百万トンを割り込みましたが、塩ビ製品が資源有効利用及び地球環境対策に積極的な役割を果たしていることについて、世の中の認識は確実に深まってきたと感じています。

昨年12月、塩ビ工業・環境協会は、塩化ビニル環境対策協議会とともに、3年連続でエコプロダクツ展に出展しましたが、700を越えるブースの中で、環境配慮型展示表彰候補の最終ノミネーションの9ブースの中に入りました。受賞こそは逃しましたが、長寿命、省資源で環境負荷が少なく、しかも、リサイクルによってその利点をさらに伸ばせること、また、二重窓として使われることにより、住み心地を大きく改善すると共に大きなCO2排出削減に貢献できることなど、塩ビ製品の環境特性がしっかりと認識されてきたのではないかと思います。

塩ビ業界は、リサイクルに関しては長年積極的に取り組んでおり、リサイクル技術開発、及びシステム整備を着実に進めてきました。さらに、2年前に塩ビ工業・環境協会がリサイクル支援制度を発足させて以来、画期的なリサイクル技術が生まれてきています。その中で、^{こうかいほう}叩解法をつかった技術は、これまで扱いが難しかった壁紙やターポリン等の複合材料に有望なマテリアルリサイクルの可能性を拓きました。また、フラクタル構造で風通しの良い日除けは、心地よい木陰同等の日陰を作り出し、地表温度の上昇を抑えることでヒートアイランド対策の一手段を提供し、それを再生材で可能とすると言う、多層的な環境配慮を実現する革新的な用途開発となりました。いずれも、海外からも着目され、期待を集めています。

塩ビを窓枠として使用した樹脂窓は、住宅・建物分野の主要な温暖化対策としてしっかりと位置付けを得るに至りました。これまでの税制上の優遇策に加えて、今年からはエコポイント制度がスタートします。省エネ効果＝温暖化対策はさることながら、室温が安定することによる心地よさと身体への負荷の軽減、静かさ、そして冬の悩みだった結露の抑制など、住まう者、そして住宅そのものへの優しさは、体験しないと実感がないものです。エコポイントが、まずは、部屋一つの二重窓化、或いは断熱性の高い窓への交換から始めるきっかけとなり、それによって普及に弾みがつくことを期待したいものです。

1月早々から昨年12月のコペンハーゲン会議のフォローに始まり、国内外の様々な場において温暖化対策に関する将来の枠組みについての議論を深める年になると思います。また、世界的に経済が本格的な回復基調に入ってくれば、原油や資源の価格も上がってくるでしょう。省石油、省資源への取り組みは一層重要になります。

これらの取り組みには持続性が欠かせません。現実からかけ離れた気合いで対応しようとしても長続きしませんし効果も限定的です。個人であろうが国家であろうがこれは同じです。経済合理性があり、社会的、国際的にも相応しい公平性が担保され、そのことが共有の認識となっはじめて、個別主体の行動に持続性が生まれ、また、全体としての実効性が担保されます。

具体的な対応においては、個人のレベルでも国のレベルでも、様々な技術や素材の特徴を踏まえてそれらを効果的に活用すること、また、生活の質を向上させながら同時に省エネ・省資源を可能とする道を目指すべきでしょう。その中で、塩ビ製品が役に立てることは多々あると思います。(了)

お知らせ

【NEW】EU Gateway Programme 事務局からのお知らせ

欧州連合が主催する日・EU貿易投資促進キャンペーン、EU Gateway Programme は、過去 10 年以上にわたり、産業分野別の展示商談会を開催しています。

来る 2010 年 2 月、当プログラムの一環として環境・エネルギー関連技術、および、建築資材・建設技術展示商談会が開催されます。

詳細につきましては、こちらからご覧いただけます。

<http://www.eu-gateway.jp>

編集後記

あけましておめでとうございます。

21 世紀に入り、早 10 年 2010 年の正月は如何でしたでしょうか。

東京では、朝は雲一つない青空が広がり、夜は輝かしい星空に恵まれた元旦でした。これが長期的な景気停滞の中で希望の持てる明るい年を暗示していればと思ったりしました。メルマガ、PVC ニュース等の適切な情報発信により、表立った忌避は影を潜めましたが、依然として塩ビを使用しないことが進歩的ないしは先進的であるかの如き動きが漂流していることも事実です。塩ビは難燃・防火性、耐久性に優れ、ライフサイクルが長くリサイクル性に富んだ省資源の時流に最もかなう樹脂です。落ち込んだ需要を回復させるために、今年は更に、よりポジティブに、よりチャレンジングに塩ビのベネフィットをアピールして参りたいと思います。

今年もメルマガ愛読者のご協力とご意見を宜しくお願い致します。(薩弘)

関連リンク

[メールマガジンバックナンバー](#)

[メールマガジン登録](#)

[メールマガジン解除](#)



編集責任者 事務局長 東 幸次

東京都中央区新川 1-4-1

TEL 03-3297-5601

FAX 03-3297-5783

URL <http://www.vec.gr.jp>

E-MAIL info@vec.gr.jp